夕刊
磐城新聞
九月二十二日發行
定價 [illegible] 一ヶ月金六拾五錢 [illegible]
發行所 磐城新聞合資會社 [illegible] 電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）

續秋冷雜筆（一）

島田忠夫

□山村暮鳥の愚庵紹介

『いはらき』新聞大正五年十月十五日の、同社平支局開設五週年記念號に、故山村暮鳥氏が『歌人愚庵』と題し執筆されてゐる。これは今まで、中央に於ける愚庵研究者達にも知られてゐなかつたもので。予も數日前に貴重なこの古新聞を得た次第である。詩人山村暮鳥氏が執筆した愚庵紹介として、興趣ある文章である。

○

歌人愚庵　山村暮鳥

此の土地にゐて安藤對馬守を知らぬものはなからうが愚庵和尙を知らぬものは多い。ところが、日本近代の歌壇では安藤對馬守を知るものは稀であつても、愚庵を知らぬものはあるまい。愚庵は弘化元年に生れ（忠夫云、安政元年の誤り）幼年を久五郎と呼んだ、磐城平の城主安藤對馬守の家中で、甘田平太夫といふ者の次男で（忠夫云、五男の誤り）あつた。年齒僅に十五にして明治戊辰の役に加はり、兄善藏と共に平の城に籠つた、戰利なく破れて仙臺に落ち延びたのであるそれから以後の彼の涙は、心のしぼる血汐であつた。歸鄕して見ると父母も妹も行衛不明、世にあるのやら無いのやら、兄は古著となつて奧州を隈なく搜索した。けれども分らない。明治二年磐城政務廳の沙汰としてさがしても知れない。久五郎の愚庵はその後、中國から九州のはてまで出かけた。分らない。明治七年臺灣征討に從軍した。其頃鮫島高朗、桐野利秋等と相知つた。明治十年には北海道より加賀、越中、越後をめぐり十一年大阪に行く、わからない。そこで山岡鐵舟の門に入つて天田五郎といつた（忠夫云、天田五郎と稱したのは兄善藏が天田眞武と改めたから、久五郎も天田五郎と改めたのである）鐵舟の世話で、東海道切つての俠客清水の次郎長の家に足をとゞめた。明治十二年平にかへつて兄に會つた。新聞に搜索廣告を出した。わからない。淺草の江崎禮二の弟子となつて寫眞器械を肩にして。京州から駿遠甲信に入り奧州をめぐつたわからない。十五年次郎長の養子となつた。咯血した復姓した『東海遊俠傳』を著はした。或る者の言を信じて遙々山形まで下つた。十七年、千葉縣下の開墾地に監督となる。その後、大阪に赴いて、內外新報社の幹事となる父母妹を尋ぬること二十餘年、日本の地にして踏まぬところはない或る時、山岡鐵舟から『今は早や外に其跡をたづねんよりは內にかへつて其人を見るに如かざるべし』と言はれて、すつぱり諦めて佛門に歸依した。明治二十年四月八日、林丘寺なる滴水和尙によつて剃髮し鐵眼と號した。年三十四。

（つゞく）

（童謠詩）

お母さんの匂ひ

平木二六

お母さんの匂ひは
春の日に
摘んだよもぎの
濃い濃い匂ひ

すずしい日ぐれの
に庭さき
行水につかつた
シャボンの匂ひ

秋の晩に
ふと目がさめて
かいだお髮の
油の匂ひ

霜のふかい
朝な朝な
たべたお握りの
焦げくさい匂ひ。

昭和落首數章（其三）

小鹿角夫

ある女給に寄す

大池のがまが鳴くよと聞きつるは女給の君のソプラノにこそ

ぺつたりと寄り來る者は犬のダニまたは女給と決りつるなり

何やかや女給の君が取りて喰ふ料理は客が拂ふものかな

妻の前に滲まし歸ればこれはしたり洋服につきし君が口紅

消息

齋藤茂吉

拜啓御芳書拜受仕候。愚庵和尙遺墨御需めの上・學校へ御寄贈の御計畫、大いにありがたく候。又遺稿のあやまりも訂正願上候、又小生の愚庵和尙の文も御訂正願上候。小生家人の病氣見舞に鄕里にかへり居り候。高久院長によろしく願上候。敬具

九月十八日
山形縣上の山溫泉にて
（島田忠夫宛）

時代警語

□人間の力で出來ない樣な事に無理な努力をして、やたらに大切な青年の時代を勞費してはならぬ。此世で愉快に生きて行けると云ふ事を信じておる、是れが一番善い信仰である、信仰があれば山が動く筈であるが無いから動かないのである、眞理が勝利を導るのである：（ドストイエフスキー警句）

扑筆微笑

◇日支事件で常磐炭界色めく

◇選擧郵便物の赤字、澤山でも無いが平局丈けで約十七萬通

◇內濟で納まらぬらしい內妻の貯金拐帶

◇本格的に天高く馬肥ゆる日和

◇あと愈々中二日

9月23日

△加波山事件起る（明治一七）△賴山陽歿す、博學多才勤王の志に篤く、日本政記、日本外史は其の著にして感化を與ふる最も大なり（天保三）△阿勝の方歿す水戶中納言賴房の義母也大阪合戰和睦し、家康血判の際自指を刺して木村重成を欺きたる程の才女也（寬永一九）△獨人海王星を發見す（一、八四六）△私に銃砲藥彈の賣買を禁ず（明治五）

一日一譚

○

劍爲不平離寶匣
藥因療病出金瓶

講談　俠艷　女長兵衛

東京　斯波南叟
（魚崎潮畫）

（二二）

是れは申す迄もなくぶち猫の怪異な仕業でございます石『今晩は止めちや』其儀願書は以前の小箱の中にお納めに成りました、不思議の事があれば有るものと思召たから御典醫を召され、眼に病氣があるか無いかを診斷させましたところ……御眼病は更に是れなく至つて好いお眼で人一倍眼みが利く……と云ふ、是れは然うでございませう、江戶町奉行と來ては天下の大名も、物の數とも思はん程の權式があつたのですから……兩三日過ぎて後、又々件の願書を取出して見やうとすると、以前通り見る事が叶ひません、再三に及んで其不思議に驚いて居ます、けれどもお役がた役で願書が出れば何とか捌きを付けねば成らず、捌くには第一其願書を御覽にならなくては成らない、最う其書面を取出すのもウンザリする位、けれども加藤家からは三日に上げず……御機嫌伺ひ……と稱し、種々な贈り物が參ります、最初取らずに置けば斷る事も出來るが取始めたから以後は斷ると申す譯にならず夫れを取る願ひ立ての事は別段催促は無いが、品物が夫れを催促する、何うしても棄て置く事は出來ぬから、或日の事一日休養を取つて書面を篤と見樣とする、然るにどうした譯か願書がございません石『是々金彌』金『ハ、ッ』石『先夜一通の書面を取出して見ようとした事があるだらう』金『ヘエ暗い書付でございますか！』石『何んだ暗い書付とは』金『ヘエ、御覽にならうとすると行燈蠟燭が急に暗くなりますが、最早お屋敷內では暗い書付で通つて居ります！』石『馬鹿め左樣なことを申すものでない、願書へ綽名を付ける奴があるか』金『恐れ入りました！』石『あの書面は如何致した』金『あれはお机の上へお擱げになりましたが、御手づから簞笥へお納めになりました』石『然うちや確かに納めた氣が致すが無い、其方取出しは致さぬか！』金『御意ではございますが、左樣仰せられては金彌迷惑仕ります、殿樣のお手の品へ漫に觸れた事もありません、殊に暗い不思議な書付など、手でも觸れゝば不思議が移ります、決して左樣な不埒な事は仕りませぬ！』石『併し不思議ちやな！』金『あれは前から不思議なものでございました』石『秋山を呼べ』金『心得ました』公用人の秋山彥太郎を迎へにやります、直に出て參りました彥『急お召何御用でございます！』石『先日加藤式部少輔から出した書面は予が受取つた樣にも心得るが、持參つたかどうちや』秋山彥太郎ギョッとした、自分で散々困り拔いたからだ彥『加藤家の願書は確かに持ち歸りに成りました』石『左樣にも思ふが、若し間違つて用箱の中に殘りあるでは無いか一應改めるやう』彥『御用箱は毎日改め目錄を作り居りますが、決してございません』石『それは弱つたなア、予は何れへか仕舞ひ失つたらしい、念の爲め用箱を改め見るよう』彥『畏まりました、就きましては今日加藤家から、重役お役屋敷へ參り、先日來願ひ出ある儀は如何に相成りましたか、一應承知致し度き由なんと答へ遣はすべきや承はり度う存じます』石『只今調べ中だ……入込んでゐるから手間取れると申し遣はせ』彥『畏まりました』秋山彥太郎石見守殿のお屋敷を出ると……扨こそ災難がお奉行の方へ移つて行つた、俺も既に切腹して申譯を立てようかと思つたが、あれは確かに消えて無くなつたに違ひない、石見守殿もさうなさるか、是れは一ッ見物だなア……と呟いたが是れは夫れに相違ありません、彥太郎役所へ戾つて來ると、加藤家の重役藤澤與次兵衛まだ頑張つて居た、與『朝倉殿より御返事承はりたい』と四角四面だ。

ラヂオ

……廿三日（水曜）…

仙臺JOHK

△前六、三〇A ラヂオ體操
△九、〇〇A 氣象通報
△九、一〇A 料理獻立（南瓜の薩摩揚げ）山田義次 日用品値段
△一〇、二〇 佛教講座（妙法蓮華經譬喩品第三）文學博士境野黃洋
△正午 A 時報
△後〇、〇五B 室內樂 東儀クワルテツト
△〇、四〇A ニュース 氣象通報 告知事項
△一、〇〇 一、五〇A 經濟市況
△二、〇〇B 婦人講座（山陽とその母）木崎好尙
△二、二五 六、〇〇A 運動競技（秋季六大學野球リーグ戰試合狀況…法帝二回戰）
△二、三〇A 經濟市況
△三、四〇A 氣象通報
△三、五〇 經濟市況
△四、〇〇A ニュース
△五、三〇A 經濟市況
△五、四五 今晚の番組豫告
△六、〇〇A（子供の時間）獨唱 井崎嘉代子
△六、三〇A 英語講座（初等科）岡倉由三郎
△七、〇〇A ニュース 氣象通報 告知事項 番組豫告 生繭相場
△七、三〇A 連續講談（大久保三政談川勝丹波守）太田貞水
△八、〇〇 俚謠 一、木遣音頭 二、七之助音頭 三、亀の子土搗音頭 四 かたびら千
△八、二〇 講演（賴山陽と皇室中心主義）德富蘇峰
△九、四〇A 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告 生繭相場

廣告

めそ丼 金參拾錢
大衆向うな丼 金參拾五錢
特上丼 金五拾錢
蒲燒（一人前）金五十錢
右弊店特々の勉强振り御試食の程を御願申上舛
平舘前通り
江戸川食堂
うなぎ
電話六七七番

平町南町
增田耳鼻咽喉醫院
電話 四八二番

市原病院
院長 市原卯太郎
平町田町電一一四

平町新川町
木村病院
電話 一六四番

吉田眼科病院
平町紺屋町

生花教授
池ノ坊流
生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

產科
婦人科
花柳病科
午前宅診
午後往診
入院應需
井阪醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

夜間診療
胃腸
內科 十二指腸蟲病
專門
內科部
梅毒
淋病 皮膚病 婦人病
專門
外科部
松村胃腸病科醫院
（平南町電話一〇七番）

東北ヒヨケの元祖
防水布製
ヒヨケ。テント
シート。雨合羽
カーテン。各種
此のセキニンバンに御注意を願ひます。
常ニ品質ト技術ニ精進。間斷ナキ改良
近頃弊店名儀をたくみに利用し受註する者有る故御注意を願ひます。
平町六丁目大通り
敷島テント商店

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
X光線科
平南町
病室完備
上田醫院
（電話一二九）

ともすれば
胃腸を害し易い秋です　必ず召上れ
每食前　蜂の一杯を！　一杯よく胃液の分泌を促して消化を助け　絕大なる殺菌力と相俟つて　健胃整腸の効を遺憾なく發揮いたします
美味滋養……蜂ブドー酒！
[illegible] 近藤利兵衛商店 [illegible]

不況續きの炭礦界に どんな影響を齎すか

日支關係今後の推移に就て 一般重大な關心を拂ひ初む

空谷跫音の大衝動を與へた日支の衝突は滿洲駐劄の二十九聯隊を周圍に有する石城つ子をして一入飛耳張目を深刻ならしめずには置かなかつた、而して之れと竝んで鋭き一閃を見せた地方人の關心は今後の推移により石炭の需給關係果して如何？と云ふ事であつた石城つ子としてまさにさもあるべき事である、次は這般の消息に關する某方面の觀測である

日支兵抗爭に對し內地石炭界は目下成行觀望中であるが船舶その他を通じての軍需品的需要を見越し樂觀の體であり又滿洲地方の輸送關係に異變ある場合には一日當り約二、三萬噸の撫順炭その他の滿洲方面よりの內地送炭が中斷され內地炭界に好材料を提供するわけである

今回の抗爭により北三省の政治局面に變化を來しても撫順炭の重課稅問題に對する日支協定が變化を來す樣なことは無いものと考へられてゐる

實業學務局の存置方を陳情

一兩日中文相に提出

昨夜平商友會で決議

平商業學校商友會谷口會長始め幹部十數名は昨二十一日午後七時から谷口樓に會合し目下文部省の官制改正案として實現されんとしつつある實業學務局廢止問題に就て協議した結果該計劃の實現は現在躍進途上にある實業學校の將來に對し伸展上或る種の暗翳を投ずる怖あるので之れが現狀維持に關し全國的に輿論が擡頭しつつある實情に鑑み同會でも右絕對反對の決議をなし關係者の贊成を得た上一兩日中文部大臣に右の陳情書を提出する事となつた

昨日迄の平局扱ひ 選擧郵便十四萬

私配達等もあつた爲

前回の半分に達せぬ

期日ゝ愈々切迫し言論戰は火花を散らす眞最中であるので、一方の文書戰即ち郵便戰の方も猛烈だらうと想像されるが、事實は反對で至つて閑散、平郵便局內ではゝキストラ迄入れ在來職員の總動員を行つての應戰準備を整へてゐたゞけいさゝか拍子拔けの體、しかしこれは文書戰が行はれないためではなく、依然或る程度迄利用されてゐるが只郵便による文書戰が少ないといふだけの事である、最も效果の多いのは用紙も封皮も立派なものを用ひ、切手も有封の三錢とする事であるが費用の關係でなか〳〵これが行はれない、金持候補でも選擧費の制限に縛られるし、プロ候補は葉書で義理を立てるとしても過重な負擔となる、そこで最も安上りな私配達と云ふのを利用して居るらしい、昨二十一日迄平局で取扱つた選擧郵便物は引受十三萬九千二百五十八通配達四萬千七百二十二通で前回の取受三十一萬餘に比較すると最後になつても其の半數內外と觀られてゐる

混戰に入る

中二日に迫つた

平町附近戰況

近來頓に激烈を加へ來つた縣議選擧運動は今や中二日の目睫に迫り愈々最後の混戰に入つた、內郷等と共に最入會地と目されてゐる平町では各派のムシり合ひがより露骨に行はれ平町を最大基本得票地として居る井上候補の如き決して樂觀出來ぬ狀態にあるので今夕六時より第三小學校に於て演說會を開き鈴木縣支部幹事長等が熱辯を揮ひ茲を必死と大衆に訴へる筈であると

北部青年聯合總會

來月十日四倉で

石城郡北部一町三ケ村の聯合青年團大會は來月十一日午前九時から四倉座に於て開催するが午前中名士の講演、團員の意見發表午後一時より活動寫眞會があると

深夜徘徊の若者は 掛先橫領の牛乳配達

平署で餘罪を洗ふ

昨二十一日午後十時半頃湯本町地內を徘徊する擧動不審の男あるを密行中の平署員が同署に連行嚴重取調べると右は當時住所不定無職新潟縣北蒲原郡中井村大字瀧の神生れ小山榮吉(三三)で昨年十月より小名濱町牛乳商小濱長太郎方に働いてゐたが去る三月中同家の掛け先金百二十餘圓を拐帶逃走仙臺方面を流れ歩き本年七月再び郡內に立ち戾り好間村大字中好間牛乳商鈴木久吉方に住み込み去月末迄働いてゐたが再たぞろ同家の掛け先二十餘圓を集め自轉車一臺を竊取行方を晦した平署で捜査中の者と判明餘罪あるらしく引續き取調べ中

電柱を倒した上 田圃へ轉げ込む

四倉歸りの菊地自動車

自轉車の爲操縱を誤る

平町才槌小路菊地自動車部運轉手佐藤末治(二〇)は今曉零時二十分頃貸切自動車を操縱四倉方面から平に向け疾走中神谷村中神谷鹽地內國道に差蒐つた際前方から疾走して來た自轉車の爲め操縱を誤り警察電柱を倒壞した上田圃中に轉落したが幸に怪我はなかつた

平町新風景

歡樂の毒花

猛烈な玉ぬきの暗躍に カフエー戰線異狀あり

唐黍燒きの婆さんが立つた夜更けの銀行角に、散らばつた古新聞の反古紙がカサコソと深みゆく秋を叩いても紅い灯に。ヂャズに。春の樣な男女の爆笑に。桃色に刷かれた歡樂の夜は中々眠らうとはしないんです。

０

ダブルベットを置いたりする──そこ迄にはまさか徹底振りは見せてはゐないが女給のサーヴヰスは今は漸く理論から實際化しつつ溫良・讓にして而も聰明な彼女は姑らく論外として中には、性の解放なんて物凄いイデオロギーに內氣なあんちやんを煙に捲いてるのなんかもあるんです。

０

斷然石城のメトロポリスわがタヒラ町のカフエーは現在合計二十一軒。その內の六軒は今年になつての開業で如何に長足の伸び方をしてゐるか、僞らざる數字が奏する愉快なカフエー行進曲は若い人達をして桃色の宵から宵へと輕いステップを踏ませずには置かないんです。

０

カフエー陣營の前哨は女給群像の散兵なんです。而も田の草取りをした樣な節の高い爪のとこが黃色い澁で染まつた樣な手でサーヴヰスされたんでは一向嬉しい感情がエレベーションされないんです。三杯が二杯に、二杯が一抔に酒の賣れ高が減少の一方を辿ると云ふ事になるんです。茲に於てか猛烈な所謂玉ぬきの接戰が行はれるんです。

０

根が男を飛び石の樣に甲から乙へと移轉して何事にまれ變化を好む一部の彼女らなんです。一度ャニつこい誘惑に過つて少しでも條件が良さそうだと全財產の風呂敷包み一つを抱えて『永々お世話樣になりました』と許り變つた新らしい天地に飛出して行くんです

０

斯くしてコンデッションの良い處、良い處と選んで爛れた樣な性の放浪生活を續けるんです。『女給さん入用』の札は颯爽たる金風の裡に今日も躍つてゐるんです。

社會敎育指導

橋本磐中校長

外八名を囑託

縣では今回社會敎育指導員として磐中校長橋本文壽氏外八名を囑託した因に從來は五名だつたが今年から九名に增員し本縣社會敎育の完璧を期すといふにある

賣れぬが『癪』と 所持金全部を飮む

平署の厄介になつた

荒つぽい椎茸賣りの男

昨二十一日午後十一時半頃平町研町地內道路で離れ彼れの別無く通行人に喧嘩を吹きかけてゐる醉漢あるを平署員が署に連行取調べた處右は小川村下小川農佐藤久吉(三七)で同日朝椎茸三貫目を背負つて平町に賣りに來たが少しも賣れないので自棄を起し所持金全部を飮み盡したものと判明一夜の保護を加へた上署員が椎茸全部を買ひ取り無謀を諭して放還した

亭主の貯金帳から 大金を下げて逃走

內妻の逐電に捜査願ひ

平町南町三六山下庄一內緣の妻宮崎千代(三四)は昨二十一日午後二時頃家人の不在を見澄し良人所有の郵便貯金通帳を盜み出して一千六百圓を拂戾し東京方面に逃走したのを程經て發見山下から即刻平署に其旨を訴へ出た

製炭指導員採用

木炭同業組合では生炭指導員兼檢査員として水野兵司氏を採用する事となつた

下駄や遺書を置いて 投身自殺と見せかく

人を甜めた飮み逃げ男のトリック

湯上りに角帶を締めた一見勞働者風の五十男が一昨二十日夜四倉驛前雀屋旅館で夕食の代金を支拂はず逃走更に同町新町太平舘及みなとや料理店でも酒の飮み逃げをした旨訴へ出でにより其筋で犯人捜查中なるも昨二十一日同町仲町海岸に所有者不明の下駄並に妻に宛てたる遺書樣の紙片を發見したが同人が投身自殺と見せかけ逃走したのではないかと

投槍

寄書歡迎

赤嶽夏川隨感

◇烏合の衆を相手に日本の精銳が戰ふ以上恐らくそれは鎧袖の一觸にも足らないことで戰爭は忽ち終局を告げることであらうとは思ふがそれにしても新聞の報する所によると寬城子で將校以下何十名の死者負傷者何十名、同じく南嶺で何十名かの貴い犧牲者が報せられてゐる。我等と關係ある第二十九聯隊が第一線に起つてる丈その活躍を祈念さるるのも一入である

◇又しても新聞の報道に○○の符合をつけ出して來たのは氣障りである、勿論これは陸軍の機密とか何とか云ふ手段ではあらうが何が何だかチットも判らない若松聯隊が何處で戰つて何人の死傷が出來たか位は判然と報道して貰ひ度いものである、吾々父兄は據る所のない報道には安心して仕事も手につかない

◇それから之は今度の事件に就てゞは無いが由來我國には秘密官僚外交の傳統がある、その傳統は殆ど無意識的ではあらうが今尙ほ多く改められてゐない

◇國際事情なり事件の眞相なりを國民に知らさずして國民と共に外交を行ふと云つてもそれは到底出來無い相談である、先づ以て此の陋弊を打破し我國の外交を國民に向つて公開しなければならない　（×△○生）

四倉名所案內刊行

四倉町江の網新妻治郎氏は此度波立藥師が鐵道沿線各所に編入せられたるを機とし專門の畫家、寫眞師等に依囑し四倉名所案內のパンフレットを作製し弘く同地を天下に紹介すべく掲載希望者を募集中であると

產業組合協議

購買販賣事業促進

郡產業組合では來月十日午前九時から平町各種團体事務所樓上で購買販賣事業促進協議會を開催するが協議事項は肥料配給改善、日用品雜貨取扱、系統機關利用其他數項である

四倉繭市況

四倉繭市場昨廿一日の取引左の如し總貫數百貫、最高三圓三十一錢最低三圓四錢、買馴三圓十四錢

激務の傍ら造り上げた 雜巾數百枚を寄附

福島炭礦の若い選炭婦が

母校へ奇特な心づくし

福島炭礦の若い選炭婦松本タマヨ外二十五名は繁忙なる勤務の餘暇休憩時間を利用し雜巾數百枚を造り此程是れを彼女等の母校たる赤井第二小學校に寄贈し近來の美擧として周圍を感激せしめてゐる

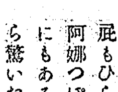
三坂澤渡に 傳貧馬

三坂村下三坂農菅谷會治、澤渡村下市萱農草野セツ所有の栗毛牝馬は何れも傳染性貧血病と判明今二十二日縣から平署に撲殺命令あつた

鮮人の女が

濁酒を密造

勿來町字酒井大日本炭礦勿來礦居住朝鮮慶尙北道義城郡玉山面生れ李敬順(三五)は先頃亭主が不況の爲行衛を晦まして以來一定の商賣も無く辛じて其の日を送つてゐたが此程日本の麴に該當するコヽシを原料とし濁酒六升八合を密造したのを平稅務署員に發見告發された此種の犯則は平稅務署最初の事件であり成り行きを注視されてゐる



艶罪黑白

◇異性に對する制服慾飜弄慾は男の持ちものと、許り思つてゐた處が女而も一見屁もひらぬ樣な阿娜つぽい藝者にもあるんだから驚いた◇飮むと醉ふ、醉ふと始めての客だらうが何だらうが容赦なく相手の頰ペタでも太腿でもアザの出來る程抓る◇その程度を超えると今度は便所へ行つて二時間位高鼾。高い聲では云へぬがこの痛快な藝者は湯本の胡蝶と云ふケッ物なり！。

健保給付出願

赤井村石城耐火煉瓦工場職工石田忠治(四七)は此程運搬中の煉瓦を右足に落し第四蹠を骨折全治一ケ月の重傷を負つたので今二十二日平署へ健康保險組合の手當方を願ひ出た

例の旅費ねだり

署の內外を掃除させ

其の勞銀で旅立たす

今二十二日午前十時頃平署人事相談所へ例の旅費貰ひが出頭したので係官が事情を訊くと右は長崎縣佐世保戶尾町七七土工杉原勝世(三九)で北海道方面から職にあぶれた失業者と判明署內外の掃除をさせて今夕旅立たせた

綴局の小火

綴郵便局風呂場より今二十二日午後二時五十分頃出火湯殿を全燒した丈けで三時五分鎭火原因失火

平町人事

△出生　鎌田町四鈴木鐵三六男吉之丞

△死亡　新川町二三三坂村中三坂寺の脇六〇吉田兵吉(五〇)久保町二七高橋初枝(三二)

大工町にチブス

平町大工町吉田榮助(三二)は昨廿一日腸チブスと判明隔離した

前田醫院
院長　前田清美
植田町電話一二四

平町田町
高久病院
（電話五二一番）
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
內科　小兒科
外科　花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

お醬油は……ヤマフル
味噌　醬油
たひら正宗
鰹節　食料品
釀造　鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町
電話（營業部一〇番　本店二七番）

耳、鼻、咽喉科
氣管、食道科
專門
平町南町
大和田醫院
（電一七〇番）
大和田郡司
（自炊の便あり）

債券。公債。兩替金融
多田井質店
平町大工町
電話五九一番

御菓子の御用命は◎
美味で評判の
泉屋支店
田町藤田女學校隣
電話呼出五一〇番

內臟外科一般
外科花柳病科
（入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九